

きよすじょうかまち
清洲城下町遺跡(本発掘調査B)

所在地 清須市清洲地内
(北緯35度12分36秒 東経136度50分20秒)

調査理由 総合治水対策特定河川事業
調査期間 平成29年7月～平成29年9月
調査面積 320㎡
担当者 酒井俊彦・蔭山誠一



調査地点(1/2.5万「清洲」)

調査の経過 今年度の調査は、五条川に関わる総合治水対策特定河川事業にともなう事前調査として、愛知県建設部河川課尾張建設事務所より愛知県教育委員会を通じて、愛知県埋蔵文化財センターが委託を受け、平成29年7月～9月に調査を実施した。調査区は五条川左岸で名鉄名古屋本線北側にあり、船杖橋から東に続く道路の南(320㎡)で、西側を17A区、東側を17B区として調査した。

立地と環境 清洲城下町遺跡は五条川中流域に形成された自然堤防と後背湿地上に立地する古代から近世にかけての複合遺跡である。遺跡の中央には、名古屋方面の南南東から北北西に伸びる美濃街道が走っており、美濃街道が五条川を東から西にわたる地点の北に清洲城の本丸が想定されている。

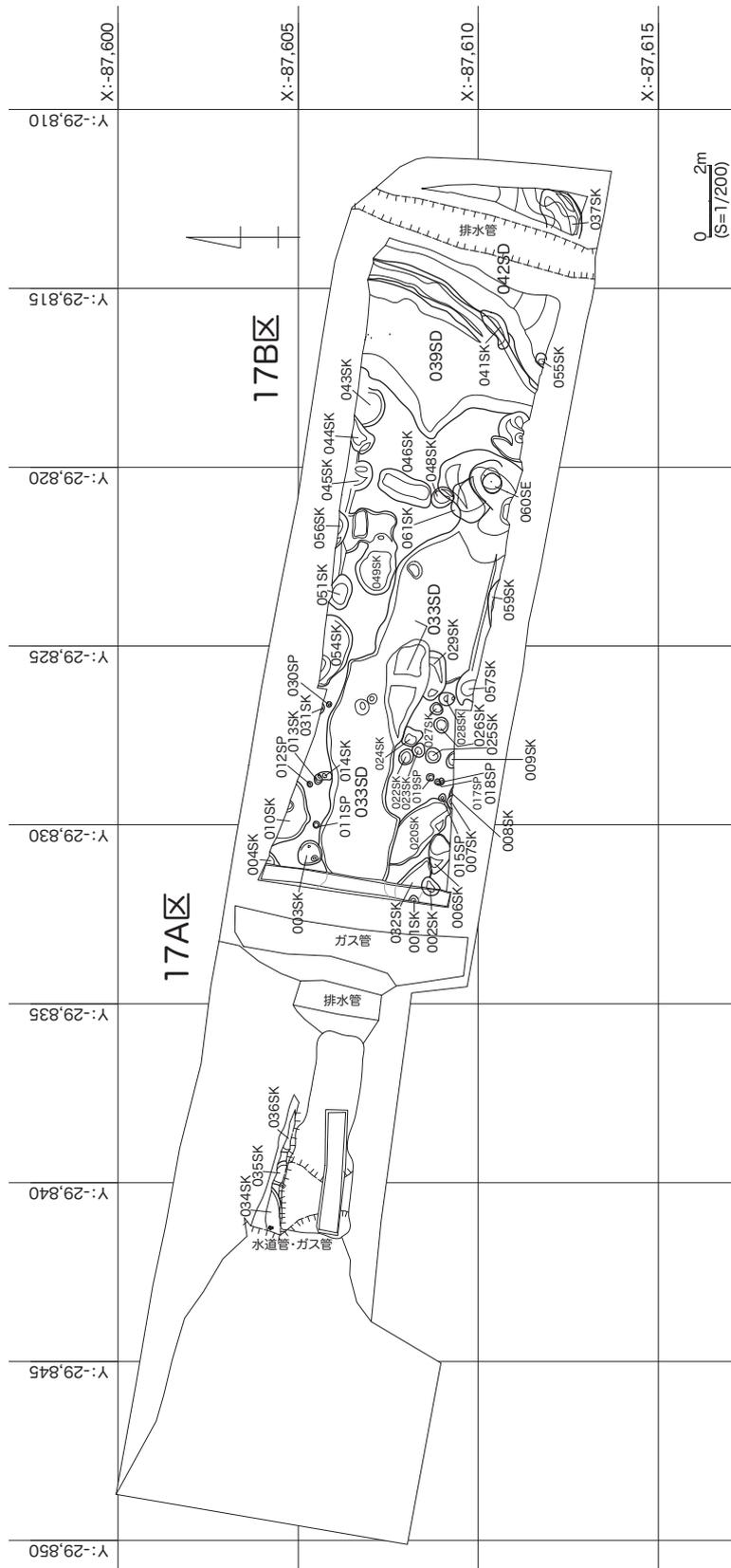
調査の概要 今回の調査では、奈良時代から江戸時代にかけての大きく3時期の遺構と出土遺物が確認できた。

(1) 奈良時代

遺構はみつからなかったが、戦国時代の遺構から須恵器が出土した。17A区の下層の砂の中からほぼ完全な状態で須恵器の鉢が出土した。他にも古墳時代前期初頭のS字口縁台付甕の破片も出土しており、付近の場所から旧河川によって流れてきたものと考えられた。



調査区遠景(東より)



清洲城下町遺跡17区遺構平面図(1:200)

(2) 鎌倉時代

奈良時代と同様に遺構は確認できなかったが、戦国時代の遺構や下層の河川の砂の地層から山茶碗と小皿、甕が出土した。付近の地点から、旧河川によって運ばれたものと思われる。

(3) 戦国時代～江戸時代前期

井戸1基、溝3条、土坑59基、自然流路1条を確認することができた。戦国時代の遺構では、17B区で見つかった自然流路が最も古く、東北東から西南西に流れていることがわかった。その後自然流路に重複して、井戸や溝が掘られており、土坑がその周囲に多数検出できた。井戸の中には、結桶が据えられていた。また、溝は調査区の北西を区画するようにめぐっており、井戸や土坑と重複するものがあった。出土遺物には、灰釉壺や鉄釉壺、天目茶碗、灰釉皿・播鉢、磁器の小皿、土師器の鍋・皿、小皿、瓦などがあった。

ま と め 清洲城下町遺跡は、これまでに多くの発掘調査が行われ、江戸時代の古城絵図などを参考に戦国時代のおおよその姿が復元されている。今回の調査地点は16世紀末～17世紀初頭における清洲城下町遺跡の中で、中堀と外堀の間にある町家推定域に当たる地点である。その一部を確認できたのみではあるが、戦国時代にさかのぼる河川の痕跡と思われる自然流路や17世紀初頭頃に営まれた区画溝や井戸、土坑を明らかにすることができた。

(陰山誠一)



17A区西側全景(南より)



17A区034SK遺物出土状況(南より)



17A区東側遺構検出状況(北西より)



17A区東側全景(東より)



17A区下層 (064NR) 出土須恵器



17B区遺構検出状況 (北西より)



17B区全景 (北西より)



17B区井戸0605E (南西より)



17B区下層 (064NR) 全景 (北東より)



17B区下層 (064NR) 土師器出土状況 (東より)



17B区下層 (064NR) 播鉢出土状況 (北東より)



17B区下層 (064NR) 灰釉皿出土状況 (南東より)